



石嶋隆生 和田優樹 嵐市太郎 松浦海之介 玉浦有之祐 上滝啓太郎 渡会元之 早瀬栄之丞 松涛喜八郎

『歌舞伎の楽しさ』

舞台機構や音楽のこと、立廻りに女方のことなど…歌舞伎の特長や面白さを知ると、より豊かに歌舞伎を味わうことができます！『牛若丸』を十分に楽しんでいただくために、出演者が「歌舞伎の世界」にご案内いたします。

創作歌舞伎

牛若丸

作 小池章太郎
演出 香川良成
演出補 小野文隆
振付 六代目嵐芳三郎
装置 小林楓
照明 寺田義雄
音楽 杵屋佐之忠
音楽補 杵屋佐之義

あらすじ (三幕)

いまから八百年ほど昔。世の中は源家と平家に別れて争っていました。源義朝の妻、常盤御前(栄之丞)は我が子牛若丸を連れて逃げているところを、捕えられてしまいます。しかし、平宗清(海之介)は、情けをかけて母子を逃がしてやるのでした。【伏見の里雪の場】

何年か後、京の都で謎の美少年が夜毎五条橋に現われ、早業で人の刀を奪い取るとの噂が流れます。実はこの少年こそ、牛若丸(有之祐)。噂を聞きつけた、武蔵坊弁慶(渡会)は、懲らしめる為に牛若丸に斬りかかりますが、降参し、二人は主従となります。【五条橋月の場】

その後も、鞍馬山で剣術の稽古に励んでいた牛若丸は、大天狗僧正坊(喜八郎)から、平家に打ち勝つための兵法書の一巻を与えられます。

牛若丸は、その一卷を手に弁慶を伴い、勇躍して陸奥へと旅立つのでした。【鞍馬山花の場】



歌舞伎で描かれる義経の世界

歌舞伎には、源義経にまつわる芝居がいくつもあります。白馬にまたがり、兜の下には美少年の顔―それが多くの人がイメージする義経です。

しかし、本当はどんな人物だったのか、だれも知りません。義経に関する史料は少ないのです。少ないからこそ、数々の伝説が残っています。伝説と歴史は違います。義経を「物語」の登場人物として見てみると、その人生に共感したり、感動したり、いろいろなことを考えさせられます。伝説にはきつと想像力をふくらませる魔法のような役割があるのだと思います。

歌舞伎という「物語」の世界で伝説を楽しんで下さい。

伝統の美を 味わい尽くす

「雪月花」の三幕で構成された舞台には、衣裳・舞台装置など色鮮やかな世界が広がります。

そして、女方、舞踊、立廻りと、歌舞伎の魅力を十二分に楽しんでいただける、贅沢な作りになっています。

■姫路出身の早瀬栄之丞です。

『東海道四谷怪談』では佐藤与茂七を勤めます。

12月には姫路で創作歌舞伎『牛若丸』を公演する予定です。

同じ歌舞伎でも『東海道四谷怪談』とはガラッと違う様式美あふれる歌舞伎で、ご家族皆さんで楽しんでいただけます。

『牛若丸』では母、常盤御前を致します。

『東海道四谷怪談』では女房役の玉浦有之祐君が牛若丸を。

つまり今回夫婦の二人が親子になり、しかも性別が入れ替わっています。

歌舞伎の面白さを凝縮した『牛若丸』ぜひ御覧下さい。



『東海道四谷怪談』佐藤与茂七